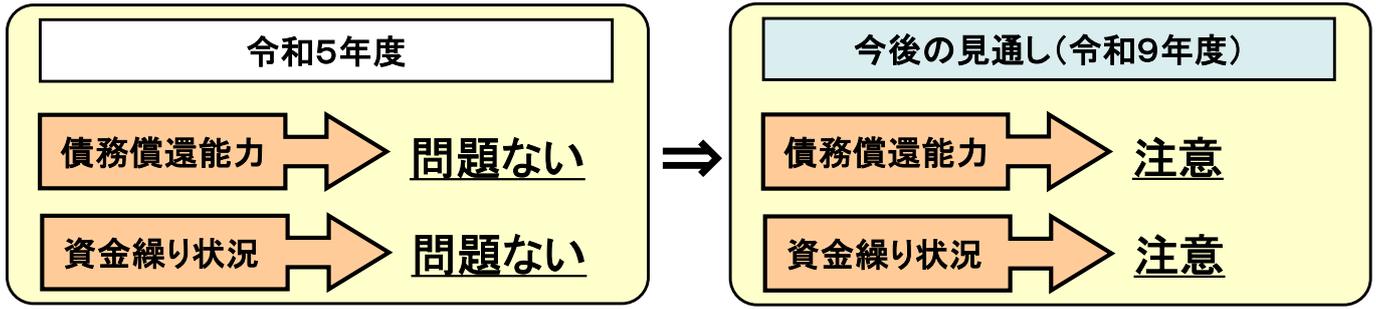


藤枝市の財務状況把握結果(要旨)

総合評価

(R7.1.28 財務省 東海財務局 静岡財務事務所)



財務指標

矢印の方向が今後の見通しの方向性を表しています

指標	① 実質債務月収倍率 〔 $\frac{\text{実質債務}}{\text{行政経常収入} \div 12}$ 〕	② 債務償還可能年数 〔 $\frac{\text{実質債務}}{\text{行政経常収支}}$ 〕	③ 行政経常収支率 〔 $\frac{\text{行政経常収支}}{\text{行政経常収入}}$ 〕	④ 積立金等月収倍率 〔 $\frac{\text{積立金等残高}}{\text{行政経常収入} \div 12}$ 〕
問題なし	3.7月 ↓ 6.9月	2.3年 ↓	13.0% ↓	6.2月 ↓ 4.6月
やや注意	18.0月	15.0年 ↓ 17.9年	10.0% ↓ 3.2%	3.0月
注意	24.0月		0.0%	1.0月

留意点

債務償還能力(①、②、③)

資金繰り状況(②、③、④)

貴市は、平成20年度以降、財政健全化に向けた各種改革を推進してきたことから、市債残高の継続的な縮減により、臨時財政対策債を除く市債残高が目標を大きく上回る削減実績となっているほか、基金残高についても、継続的な積立てにより、財政改革に取り組んで以降、最も高い水準となっている。

一方、地方税収がほぼ横ばいで推移する中、人件費や扶助費のほか、学校ICT環境整備事業費等の増加により物件費等も増加しており、今後は、地方税の増加が見込めない一方で、人件費や扶助費、物件費を中心に支出が増加する見込みである。

また、新学校給食センター整備事業や駅前市街地再開発事業など、大規模な事業を予定しているほか、老朽化による公共施設の適正管理についても計画的に進めていく方針であり、今後は、収支の悪化や財政調整基金の取崩しのほか、市債残高が増加に転じることが見込まれている。

貴市としては、上述のとおり財政状況の悪化が懸念されることから、ふるさと納税の返礼品の拡充による収入の増加や、全事業の総点検を毎年度実施し支出の削減に努めるなど、歳入・歳出両面から財政改革を継続的に取り組むことで義務的経費の割合を抑制することとしている。また、公共施設の長寿命化対策を計画的に実施し、施設の有効活用や維持管理に取り組むことで、財政負担の抑制に努める方針である。引き続き、「藤枝型新公共経営」を推進することで、健全で持続可能な経営基盤の確立に取り組まれない。

財務指標の経年推移

	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	類似団体 平均値	全国 平均値	(参考) 静岡県 平均値
債務償還可能年数	4.3年	5.2年	2.6年	2.8年	2.3年	4.3年	4.2年	4.6年
実質債務月収倍率	7.1月	6.8月	4.6月	4.6月	3.7月	7.3月	6.1月	6.3月
積立金等月収倍率	5.2月	4.7月	5.8月	5.9月	6.2月	4.7月	7.5月	5.5月
行政経常収支率	13.7%	10.8%	14.8%	13.5%	13.0%	12.3%	13.9%	11.7%

※平均値は、いずれもR4年度